

RESULTS JAPAN ANNUAL REPORT



05

M a y

令和2年度
事業報告書

BCGワクチンは新型コロナウイルスに 効果がある？

結核予防のためのBCGワクチンを接種していると重症化しないのではないか、という説が広がっています。接種している国で、死者数が低い傾向にあるためです。ただ、世界保健機関(WHO)は今のところ、科学的に予防効果はないという立場をとっています。このことについて、結核予防会結核研究所名誉所長 森亨氏に伺いました。

BCGは、結核菌を弱毒化させた生ワクチンです。森氏によると、証明されたわけではありませんがBCGは結核以外の予防にも役立つそうです。結核の免疫と同様に、ほかの病気の抵抗力もつく。実際、膀胱がんでBCGによる免疫療法が薬事上も認められています。BCGは接種で抵抗力がつき自然免疫も強くなるのが他のワクチンにはない特徴だそうです。

米ニューヨーク工科大の研究によると、BCGを接種していない国(イタリア、ベルギー、米国等)では、新型コロナウイルスの感染者数や死亡率がBCG接種している国よりも統計学的に有意に高かったといいます。しかし、森氏は「だからといってBCGが新型コロナウイルス予防に役立つことが証明されたわけではなく、大人がBCGワクチンを接種するようになると、結核予防のために本来、接種するはずの乳幼児が接種できなくなってしまう」と警鐘を鳴らしています。

オーストラリア等で治験が進められています。とても興味深いですが、今の段階で大人がBCGワクチンを新型コロナウイルス対策として接種するのは時期尚早といえるでしょう。

新型コロナ感染拡大といえど結核を 忘れてはならない

COVID-19を抑えるために在宅勤務が推奨されているため、日本リザルツ事務所も在宅勤務を一部取り入れています。通勤時間を節約することによって生み出された時間を有効に活用するため、スタッフ、ボランティア全員が改めて事務所の蔵書にあたることになりました。

筆者が手にしたのは「現代の結核 いま何故こんな病気が」(ニュートンプレス)。

日本リザルツは結核根絶の活動を行っており、著書の結核予防会結核研究所名誉所長 森亨氏も長年、日本リザルツの活動を支えてくださっています。この本の発行は、今から 22 年前に遡りますが、結核対策の公衆衛生の歴史を知ることは今の COVID-19 対策に通じ、再読する価値を実感します。

この本の再読をきっかけに、森氏に「結核の今」と COVID-19 についてインタビューを行いました。

コロナ感染のニュースの陰になってしまいますが、結核の新規患者は依然、存在します。森氏は「心配なのはコロナ感染を恐れ、病院に診察にいかず手遅れになってしまう患者さんがいるのではないかと思います」と仰っていました。

コロナ対策も必要ですが、従来の感染症をないがしろにしたら将来、大きなつけを払わなければならないことを忘れてはなりません。



結核も新型コロナウイルスの重症化のリスク要因

新型コロナウイルス感染の重症患者に糖尿病や肺の疾患を持っている人が多いことが報告されています。現在、結核がリスク要因とは報告されていませんが、結核予防会結核研究所名誉所長の森亨氏は「結核患者の約 20%が糖尿疾患を患っており、結核も(新型コロナウイルスの)リスクファクターといえる」と指摘されています。

タバコも同様です。新型コロナでも喫煙者は重症化すると報告されていますが、結核も喫煙者の発病率が高いことが明らかになっています。

結核を発病した患者が新型コロナウイルスにかかったとき、重症化する可能性が高くなるのは自明の理といえるでしょう。

保健所は国、自治体の結核対策の「見張り番」です。患者を診察した医師は保健所に届けることが義務付けられており、保健所は患者を登録して、感染の恐れがある接触者の検診や指導を行っています。現在は、新型コロナウイルス対応で人的リソースがとられている状況ですが、これまでのこうした保健所のノウハウも新型コロナ対応で生かされているのではないのでしょうか。

2020年05月02日

靴の仕分けと梱包

スナノミ症で苦しむケニアの人々のために、全国から送って頂いた靴の仕分け、発送準備作業を行いました。

今日一日スタッフ総出で40箱、1,000足弱の靴をサイズごとに分けて、箱に入れました。



引き続き、早く靴を届けられるように頑張ります。



新型コロナウイルスの迅速診断キット開発

日本の会社が、新型コロナウイルスの診断キットを開発しました。厚生労働省が既に薬事承認の手続きに着手しているそうです。15分で判明するというのが嬉しいですね。ただ、鼻の奥から綿棒で検体を取り出すというのは痛そうな気がします。薬もそうですが、診断キットも色々な種類のもので出てくると良いですね。

毎日新聞

2020年(令和2年)4月29日(水) D新聞 第6版

感染15分で判明

東京の会社開発
キット週20万件分

抗原検査

臨床検査を製造・販売する「富士レビオ」(東京)は28日、新型コロナウイルスに感染した人を15分で検出できる「抗原迅速診断キット」を開発したと発表した。厚生労働省が薬事承認の手続きに着手している。日中に抗原検査の検出結果が判明する。従来のPCR検査は検体の採取から検体の抽出、抽出液の検出まで数時間かかる。抗原検査キットは検体をそのまま検出できる。PCR検査に比べて検体の採取が容易で、検体の抽出も不要。また、検体の抽出に使う試薬も、PCR検査に比べて少ない。検体の抽出に使う試薬は、検体の抽出に使う試薬に比べて少ない。検体の抽出に使う試薬は、検体の抽出に使う試薬に比べて少ない。

英国がGaviアライアンスへの資金拠出を表明

4月29日、英国がGaviアライアンスへの資金拠出を表明しました。

毎年330百万ポンドを2021年から25年の5年間に拠出します。

総額16.5億ポンドは、5年間で21.42億ドル(2,200億円)になります。

一方、日本はどのようなのでしょうか。これまで、Gaviに対する日本の拠出金額はG7の中で最下位でした。前回の増資会合(2016～2020年分)でも、英国は26.96億ドルの拠出を表明していましたが、日本の拠出金額は0.95億ドルでした。

Gaviは英国での増資会合を今年6月3日、4日に控えています。日本が他のG7諸国並みの金額を拠出することを願っています。

2020年05月03日

新型コロナウイルス対策：

ヘルスセンターの様子

ケニアでも新型コロナウイルスのまん延が深刻な影響を及ぼしています。

5月1日付の朝日新聞「私の視点」でも様子を紹介させていただきました。

今日は、ヘルスセンターの様子を紹介したいと思います。

朝8時には予防接種を受けたいお母さんで待合所がいっぱいになります。

キャパシティの問題で、予防接種は先着20人しか受け付けられません。そのため、スタッフが説明を行いますが、中にはなかなか聞いてくれないお母さんもあり、毎日のように押し問答が起こります。私も人員整理のお手伝いをしています。

写真は政府から届いた防護服です。



スタッフが感染すると、ヘルスセンターは閉鎖されてしまうため、皆さん衛生管理には十分気を付けています。

ヘルスセンターは3月13日の公式発表後、すぐに衛生用品を注文しましたが、実際に品物が届いたのは1か月後。

今も物資不足に悩まされています。



ヘルスセンター利用者はマスクの使用が義務付けられており、必ず検温を行います。

熱のある利用者は隔離され、医師の診断を仰ぎます。

院内感染を防ぐために、1.5メートル以上の距離を保ち、順番待ちをしてもらいます。

ヘルスセンターでは定期予防接種を無料で行うことができます。Gaviアライアンスの支援で行われています。

ロタウイルスのワクチン接種中です。

6か月、10か月、14か月、1年8か月…等、年齢にわけて、それぞれの子どもに必要なワクチンを提供します。

やっぱり泣き出す子どもたち。



小さい子は足にワクチンを打ちます。

ヘルスセンターの人員不足で、今は1人の看護婦さんが全てワクチン接種を仕切っており、私も毎日補助としてお手伝いを行っています。Gaviの支援のおかげで、多くのカンゲミの



子どもたちの命が救われています。

医療体制が脆弱な上、未曾有のウイルスの影響で、通常の医療サービスの継続が難しくなっているスラム街のヘルスセンター。どうやって1人でも多くの子どもがワクチンを接種でき、健やかに暮らすことができるか？私もできることをお手伝いしていきたいです。



高木兼寛(たかき かねひろ)の脚気対策、 イギリス医学対ドイツ医学 ～「白い航跡」

昨日、日本リザルツでは読書会が行われました。私がその時に用いたのは、吉村昭著「白い航跡」です。本書を紹介くださった味の素ファンデーションの栗脇様、ありがとうございました。とても面白い本です。

以下、私が作成した感想文を共有します。

「白い航跡」は高木兼寛という医師の一生を描いた歴史小説である。高木兼寛は脚気の予防法を確立した人物として知られている。戊辰戦争に医師として従軍した高木兼寛は自身の未熟さを痛感し、日本とイギリスにおいて最新の医学を修めた。イギリスから帰国後、当時日本で大きな問題となっていた脚気の対策に取り組んだ。

脚気の原因は栄養バランスの崩れにあることに高木は着目した。海軍の軍艦がサンフランシスコやシドニーに停泊している時に脚気の患者が出なかったのは、現地に上陸した乗組員が洋食を口にしたからであり、反対に、日本へ戻る航路で脚気患者が多発したのは船上で和食を食べるようになったからではないかと推測した。高木が留学したロンドンの病院には脚気患者が一人もいなかった。日本人は炭水化物の摂取が多い反面、肉食を嫌うためにタンパク質を十分に摂っておらず、それが脚気の原因になっていると、高木は仮説を立てた。

高木は海軍において兵食の洋食化を試みた。しかし、当初は、兵士が洋食になじまない、経費が増大する等と強い反発を受けた。その後、周辺の人々を説得し、遠洋航海に洋食を導入することに成功した。高木はその航海において脚気による死亡者をゼロとすることに成功した。同じ航路において前回は23名が脚気により死亡していたので、凄い効果である。一方、高木は海軍にパン食を導入したかったが、結局、食習慣や経費増大の問題からそれを諦めた。その代わりに麦飯を導入した。これらの改革により、海軍は脚気を根絶することに成功した。

海軍における脚気の激減・根絶は陸軍にも伝わっていたが、陸軍は同じ対策方法を取り入れなかった。陸軍は、脚気は伝染病によるものと考えていたため、環境の良い涼気の流れる場所に療養所を設けるといった対処をしていた。主食は白米とした。実際には、陸軍においても現場では白米に麦を混ぜることにより脚気を激減させることに成功した例があったが、それは同時に現場と中枢部との間に軋轢を生んだ。そのため、日清戦争においては、陸軍では脚気によって3,944名もの軍人が死亡した。これは戦死・戦傷死者合計の3倍以上という数値であった。同じ時、海軍における脚気の死亡者は1名だった。

高木兼寛は1920年4月に没した。その10年近く前に、鈴木梅太郎がオリザニンを発見した。ほぼ同時に、ポーランドのフンクが同種のものを発見し、ビタミンと名付けた。欧米各国においてビタミンの研究が進んだ。日本では、高木が没した翌年に大森憲太が人体実験を行い、ビタミンBの注射及び栄養バランスの取れた食物により重症の脚気患者を平癒させることに成功した。その後も大森は追試を重ね、これにより脚気の原因がビタミンB欠乏であることが揺るぎないものとなった。高木が没して5年後、学識経験者による臨時脚気病調査会は、脚気がビタミンB欠乏によるものであると断定した。

私はこの物語を読み、イギリス医学対ドイツ医学の対立に興味を持った。イギリスで医学を修めた高木兼寛が臨床を重視したのに対して、ドイツ医学の流れを汲む陸軍は、基礎医学・研究を重視した。陸軍は、高木の食物原因説には学問の理論的裏付けがないとした。陸軍軍医の森林太郎は、麦よりも白米の方がタンパク質を多く摂取できると言って反論した。また、海軍における脚気患者の激減を単なる偶然のものとして考えた。この時、私は「疫学の父」と呼ばれるジョン・スノウ(1813年－1858年)の話を思い出した。イギリス・ロンドンの井戸水がコレラの感染拡大の原因であると推測したスノウは、井戸を使えなくすることにより、コレラの感染拡大を防止した。当時、コレラ菌と呼ばれるものは発見されていなかった。井戸を使えなくした結果、コレラの拡大を防ぐことはできたが、その因果関係は、厳密な意味では分かっていなかった。それが分かったのは随分と後になってからのことだった。脚気の原因として窒素・炭素比率に着目した高木の説は厳密な意味では違っていたのかもしれないが、実際に試してみて、効果があるか判断するという、高木兼

寛のイギリス式医学の介入により海軍の脚気が激減したことは事実である。

朝日新聞「私の視点」ケニア駐在員・長坂優子

2020年5月1日(金)の朝日新聞朝刊「私の視点」に、ケニア駐在員・長坂優子さんが書いた文章が掲載されました。

現地の様子を皆様にご覧いただきたいとこの文書を作成したそうです。

今回の記事の中、長坂さんは「アフリカでの新型コロナウイルスの感染拡大が、通常の医療サービスの提供にいかほど深刻な影響を引き起こしているか、まず現状を知ってほしい」と、ケニア・ナイロビ市のスラム街から訴えています。現地にいるからこそ知り得る情報が詰まっています。

子どもたちに対する予防接種のこれ以上の遅延を避けることができればと、私も願っています。

皆様もご一読くださいませ。



妖怪アマビエの金太郎飴

妖怪アマビエの金太郎飴がテレビのニュースで取り上げられていました。

金太郎飴本店様は、厄除けの妖怪がデザインされたこの飴を、コロナ退散の願いを込めて作られました。アマビエは半人半魚の妖怪です。江戸時代に肥後の国・熊本に現れ、「病が流行ったら私の写し絵を人々に見せよ」と告げたとの言い伝えがあります。

さて、日本リザルツは、過去に金太郎飴本店様にお世話にな



りました。昨年のTICAD7(第7回アフリカ開発会議)では、「金太郎飴で世界平和を実現する」というテーマでつくられた飴を、本会議でお配り頂く等ご協力頂き、お陰さまで、多くのアフリカの方々に飴と笑顔を届けることができました。

今回のアマビエ飴も大変美味しかったです。皆様もアマビエ飴で厄除けを！

2020年05月05日

「のび太になろう。」

本日5月5日の朝日新聞朝刊に「ドラえもん」STAY HOMEプロジェクト、「のび太になろう。」のメッセージ広告が掲出されました。

ドラえもんとのび太が寝転がり、くつろぐ姿が描かれ、下記のメッセージが書かれています。

のび太になろう。

今日はこどもの日。

本当は遊びに行きたいよね。

おじいちゃんおばあちゃんにも会いたいよね。

でもね、今はおうちにいよう。

それだけで大切な人を、世界を、
守れるんだから。

ジャイアンみたいに野球が好きなきみも、

スネ夫みたいにラジコンが好きなきみも、

いっしょうけんめいのんびりしよう。

のび太くんみたいに、ね。



同じ朝日新聞朝刊一面の見出しは「緊急事態31日まで決定」でした。

今はコロナで世の中は大変ですが、のび太のようにのんびりする気持ちになれるといいですね。

2020年05月06日

はしかの流行 UNICEF警告

～2020年4月25日・日本経済新聞夕刊～

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の国では予防接種サービスが遅延しています。プレスリリースではGaviアライアンス事務局長のセス・バークレー氏が、予防接種を逃した子どもたちに再度予防接種の機会が与えられるように(Children missing out now on vaccines must not go their whole lives without protection from disease)訴えています。



さて、はしかの予防には2回のワクチン接種が必要です。日本は、2006年にワクチン接種を2回行うことを義務付けました。

それにもかかわらず、2010～18年の間に、はしかの1回目の予防接種を受けなかった子どもが日本に38万6,000人もいるということです。今回の、はしか流行に対する警告は、日本に対しても発せられているのではと感じます。

それでも日本は恵まれているのかもしれませんが。海外の国々では、予防接種で防ぐことができる病気により多くの子どもたちが命を落としています。Gaviアライアンスのような組織を通じて、そういった国々への支援ができればと願っています。

ジェンナーの贈り物

新型コロナ感染で、世界各国が待ちわびているのが一日も早いワクチンの開発です。自粛やブロックアウトでいったんは新規感染の数が収まったとしても制限を緩めると第2、第3の感染の波が襲ってくる。ワクチンが開発されない限り、新型コロナの呪縛から逃れることはできない。

欧州連合の呼びかけで4日行われた「コロナウイルス・グローバルレスポンス」では、約74億ユーロ(約8,600億円)が集まった。日本も新規分2億3,400万ドル(約250億円)を含む8億3,400万ドルの拠出を表明した。このお金はワクチン開発等に使われる。

6日付の産経新聞朝刊の1面コラム「産経抄」では、天然痘ワクチンを開発した英国の医学者、エドワード・ジェンナーを取り上げている。ワクチンの語源が、ジェンナーの実験に供された牛(メス牛)を意味するラテン語vaccaにあることや、今日14日が「種痘記念日」であること、「ジェンナーが価格を抑えて多くの人が恩恵を受けるようにあえて特許をとらなかった」ことを紹介している。

産経抄が指摘するようにワクチン開発のために世界は今、一つになって闘い、そしてジェンナーの精神にのっとなって動くことが求められている。ジェンナーの贈り物が待ち遠しい。

そして、同じ1面に掲載されている「朝の詩」を、声に出して読みたくなった。

国内では、他県のナンバープレートの車を損壊したり、エッセンシャルワーカーの家族を傷つける、悲しい出来事が相次いでいる。だからこそ、この詩が心に響く。

「辛いこと悲しいこと

後悔も挫折も

全部自分を磨いて

くれる

ピカピカになろう

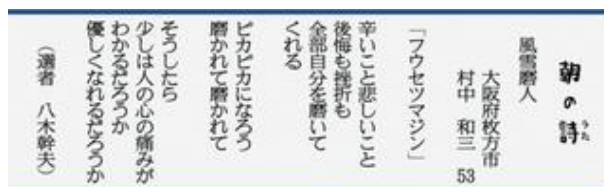
磨かれて磨かれて

そうしたら

少しは人の心の痛みが

わかるだろうか

優しくなれるだろうか」



新型コロナウイルスの影響が、 がん治療にも問題を

新型コロナウイルスの影響が、がん治療にまで及んでいるとのことです。5月5日(火)毎日新聞朝刊の中で、日本での状況が報告されていました。

医療機関側の事情によりがんの化学療法・手術・検査・診察等を延期せざるを得なくなった人がいる一方、感染への不安から通院の予定を自ら延期した人もいるとのことです。

新型コロナウイルスは、世界中で保健医療サービスの提供に様々な影響を及ぼしています。ケニアでは予防接種サービスが影響を受けています。

問題の解決を祈っております。



2020年05月07日

世界の連帯を示した国際会議

連休中、新聞各紙でも報道されました欧州連合主導の国際会議が4日開かれました。

40を超える国や機関が合計74億ユーロ(8,500億円)を拠出すると表明。

日本は約7.6億ユーロ(CEPI等を通じて支援する約250億円を含む)拠出する方針を示しました。

この会議には、日本リザルツも頻繁に意見交換をしているビル・ゲイツ氏率いるビル&メリンダ・ゲイツ財団、米歌手の



マドンナさんも参加されました。

今回は、自らウイルス感染経験のあるジョンソン英首相も参加、説得力ある呼びかけがありました。

2020年05月10日

コロナも雨も大変なケニア

新型コロナウイルスの感染はケニアでも広がっています。

昨日時点で感染者は649人まで増えました。

先週からケニアのナイロビやモンバサの一部で完全封鎖（ロックダウン）が開始されました。

ナイロビで封鎖された場所はイスリーというインフォーマルセクターのビジネスの中心地区。

経済活動に支障が出ることに伴う、治安悪化が心配されています。



大変なのは新型コロナウイルスだけではありません。

ケニアは先月から雨期に入り、至る所で洪水や浸水が起きています。

西部ではすでに200人近い方が亡くなっています。例年より、降水量が多い印象を受けています。

日本とは違い排水設備が脆弱なので、大雨が降ると、道が文字通り「川」のようになります。

家屋の浸水も相次いでおり、カンゲミ地区も含めたスラム地区ではバラックの倒壊が起きている。

送電システムにも影響が出るので、停電が続きます。昨日は1日中停電でした。

ヘルスセンターのシェム医師によると、雨が降ることによって衛生環境も悪化するので、コレラや下痢等の疾患になる人が増えているそうです。

新型コロナウイルスでただでさえ、人々の生活に影響が出ているところに、大雨が追い打ちをかけています。

衛生管理に気を付け、できることを続けていきたいと思っています。

新興・途上国へのグローバルな支援体制＞

金融取引税等による資金援助で

このところ東京を含め全国的に新興コロナの感染者が減少しており、この傾向が続いてくればと思いますが、世界では感染者が400万人を超える、その勢いは止まりません。なかでも、新興国と言われている国々で急増し、さらに途上国でもじわじわと増加してきています。

こうした現状を日経新聞が報じていますので、簡略にまとめて紹介します。

この報道の結論は、「新興・途上国への医療や経済の両面でのグローバルな支援体制の構築が求められています」というものです。国連やWHO、世界銀行等から相次いで支援の呼びかけがなされています。

資金支援については、各国政府はODAで、民間は寄付ということで拠出していますが、再三述べていますように、第二の公的資金としての性格を持つ国際連帯税も必要です。特にコロナ危機による世界的な大不況の中にあって、株や為替等金融取引がどこ吹く風とばかりに、バブル気味な動きを呈しています。感染症流行というグローバル化の負の影響に対処するため、金融取引への課税こそが求められるのではないのでしょうか。

【日経新聞】新興国感染、先進国抜く 1
日5万人超え 新たなリスク

◎米欧が経済再開へ動き始めているが、
新興・途上国で新型コロナの感染が急増
・新規感染者数は5月上旬に先進国を逆転
・ロシア：感染者数が連日1万人超え、ブラジル：1日の死者数が米国に次いで世界2位に

・脆弱な医療体制だが、経済再開を急ぎ、
感染爆発の懸念が高まる

・財政基盤が不安定な新興・途上国の感染拡大は、世界経済へのリスクに

◎アフリカも急増を懸念(累積感染者数4万人超、死者数約1,300人だが)

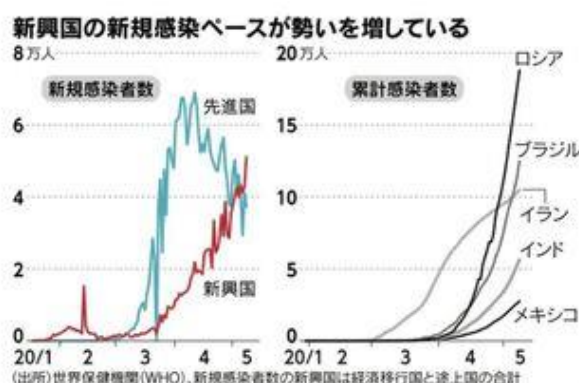
・WHO：対策をとらなければ、1年間で最大4,400万人感染、19万人死亡の恐れ

・WHO：とくに南アフリカやカメルーンの感染拡大に警鐘

◎新興・途上国の公的な医療体制の脆弱という問題(WHOによると)

・公的医療関連支出は国内総生産(GDP)比3%、先進国は8%

・感染が拡大しているロシアやブラジル、イラン、インド、メキシコ、世界平均(6%)を下



回る

◎新興・途上国から海外(投資)マネーの流出増大

- ・ 自国通貨の相場が下落し、対外債務の実質負担を高めるという悪循環に
- ・ 国際通貨基金(IMF)には100カ国以上が緊急融資要望

◎新興・途上国への医療・経済の両面でのグローバルな支援体制の構築が必要

- ・ 新型コロナの感染爆発を止められなければ世界的戦いに終止符は打てず
- ・ 対外債務の不履行等が広がれば、世界経済にも大混乱が広がる懸念

※グラフは日経新聞より

2020年05月12日

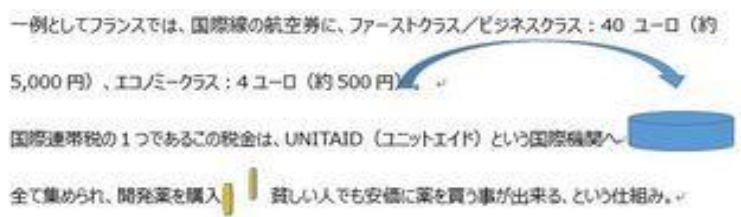
コロナ終息に向けて、

GGG+フォーラムにて意見交換しよう

「世界を変える100人の働き人」へ “上村雄彦 教授” がご出演されました。
前職はFAOに勤務され、現在、横浜市立大学国際教養学部教授です。

SDG's達成に必要な資金は 年間400兆円。

残念ながら、世界全体でも年間の拠出金は、この数字にはかなり程遠いのが現状です。
その対策として、国際連帯税(グローバルタックス)の導入に向け提唱していらっしゃいます。



しかし、ここ数か月で世界の経済状況は一転しました。

現在、新型コロナウイルス拡大の第2波が懸念され、最大2,500万人以上が職を失う(実際はもっと多いかもしれません)可能性があります。コロナ回復までには世界GDPの1割にあたる900兆円の資金が必要です。コロナ収束後、航空券に日本でも国際連帯税をかけたなら航空関連企業、その従業員はどうなる？

貧しい国々の方々を薬によって命を救っても、その後、自立できなければ自殺者も増えて

しまうでしょう。コロナで一変した経済情勢を鑑みて、国際連帯税(グローバルタックス)もイノベーションが必要な時であるのかもしれない。

「愛」を感じます

日本リザルツを応援してくださっている柴田様から、素敵なメッセージの入った額をいただきました。

「愛」を感じます。

柴田様は、先日もケニアに運動靴を送るお手伝いをして下さいました。いつもありがとうございます。



2020年05月15日

新型コロナウイルス追跡アプリ開発は 厚生労働省が主体に

官民共同で進めていた新型コロナウイルス感染のトレーシング(追跡)アプリの開発は、厚生労働省が主体となって行うことになりました。

世界各国がアプリ導入に動いている中、当初は、経済産業省等各省庁が参加する「新型コロナウイルス追跡テックチーム」のもと、民間の一般社団法人「コード・フォー・ジャパン(CFJ)」が先んじて開発してきました。自治体のヒアリングも含め、日本リザルツも協力してきましたが、残念ながらCFJのアプリは採用されませんでした。

開発に注力してきたCFJは13日夜、これまでの経緯を説明する勉強会をオンラインで開催しました。午後8時という時間帯ではありましたが670人が視聴、関心の高さをみせました。CFJはこれまで開発してきたアプリのソースコードを18日に公開するとしています。



勉強会では、視聴者から多くの質問が寄

せられました。重要なのは誰がではなく、1日も早くアプリを完成させリリース、多くの人にインストールしてもらうことです。CFJがやってきたことは決して徒労ではなく、大きな意味があったと思います。

アフリカ諸国のポリオに関する最新情報

新型コロナウイルスの拡大で、ワクチン接種、ポリオ等の感染症にも影響が出ています。日本リザルツケニア特派員が、アフリカ諸国の現状を取り纏めました。

アフリカのポリオ問題(5月15日時点)

1. エチオピア

- ・エチオピアではポリオ疑いが毎週計上。GPEIのデータによると22例。
- ・ワクチン由来のTYPE 2 と呼ばれるもの。
- ・先週までに180例の疑いが報告。死者はなし。
- ・死者数で言うと、COVID-19でなく、狂犬病、コレラ、ポリオ、はしかのほうが圧倒的に多い。

2. ケニア：2005年にポリオフリー

現状：「もはやポリオウイルス(野生型又はワクチン由来)の感染はないが、野生型又はワクチン由来の再感染に対して影響を受けやすい国」

ワクチン接種の状況：

生後すぐに生ワクチンを接種。

6週間、10週間 OPV(生ワクチン)

14週間にOPVとIPV(活化ワクチン)の接種を実施。

公立の医療施設では、Gaviの支援で無料提供。

ケニアはGaviの資本のもと、UNICEFを通じてワクチンが供給されている。UNICEFは技術支援がメイン。

- ・ケニアでは野生株のポリオ発症に関しては、統計上は確認なし。生ワクチンを提供しているためポリオを発症した例が2018年～2019年の1年間で14件。2019年、2020年は報告ゼロ。
- ・農村部、過疎地域では医療従事者の人員が足りないことが原因でLevel 1や2(町医者レベル)の公立医療施設は閉まっているところもあり、ワクチン接種ができない子どもが出てきている。

- ・日本リザルツが活動を実施するカンゲミヘルスセンター(Level 3：首都ナイロビでは各区に1～2つ)では、3月12日のケニアのコロナ発症確認後、1か月にわたって、ワクチン接種のサービスを見合わせた。そのため、6週、10週、14週に行うポリオのワクチン接種ができていない子どもが多い。

- ・現在は、院内感染の抑止とキャパシティ不足により、予防接種は1日20人の子どもに対してのみ実施。通常の5分の1にサービスを縮小しているため、ワクチン接種を受けられない子どもが増えている。

- ・大雨・洪水により衛生状態が悪化し、コレラや細菌性の下痢にかかる子どもの数が増えている。ナイロビは土砂崩れによりダムからの水の供給がストップしたため、断水が続いており(復旧まで2週間を要する)水へのアクセスもできない状態に。

3. ニジェール

- ・根絶間近だったが、2020年4月24日にNiamay地区とTillaberi地区において2人の子どもがポリオに新規感染したことを確認(WHO)。

4. アフリカの動き

- ・世界保健機関(WHO)は、新型コロナウイルス感染予防策として人と人との物理的距離を確保することから、2020年3月26日付のガイドラインで、大規模なワクチン予防接種キャンペーンを停止するよう指示。

- ・生ワクチンを打った子どもがポリオにかかり、それが伝染していくことも問題視。

- ・ワクチン由来のポリオが発生しているアフリカ諸国は以下の通り(WHO)：アンゴラ、ベナン、ブルキナファソ、カメルーン、中央アフリカ、チャド、コートジボワール、コンゴ民主共和国、エチオピア、ガーナ、マリ、ナイジェリア、ニジェール、トーゴ、ザンビア。

- ・AFRO(WHOアフリカ地域事務所)はアフリカの47の国と地域のうち43か国で野生株のポリオは終息していることを確認。残りはカメルーン、中央アフリカ、ナイジェリアと南スーダン。

- ・WHOやアメリカ疾病予防管理センター(CDC)、国連児童基金(UNICEF)らで構成されるイニシアチブ「世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)」では、対象国に対して、ポリオワクチン予防接種キャンペーンを6月1日以降に延期することを表明。

- ・アフリカの今週のポリオ発生状況(5月6日現在：GPEI)

- チャド：ワクチン由来のポリオ(cVDPV2) 1件、環境中のサンプル陽性2件

- コートジボワール：環境中のサンプル陽性(cVDPV2) 4件

- ニジェール：ワクチン由来のポリオ(cVDPV2) 1件

- ナイジェリア：環境中のサンプル陽性(cVDPV2) 3件

参照：

ポリオの国別のケース数に関して

見ていただくとわかる通り、生ワクチン由来のポリオまん延と通常通りワクチン接種ができないことが深刻な影響をもたらしております。ポリオ根絶を達成するために、関係機関が一丸となって何ができるのかを考えたいと思います。

母の日とコロナ

去る10日は母の日でした。皆様はどのような母の日を過ごされたのでしょうか？

5月11日の朝日新聞に胸を突く写真がありましたので紹介いたします。

介護施設にいる母を娘と孫が訪問しましたが、ガラス越しにしか対面できず、会話は携帯電話でという状況です。

コロナの渦中でなければ、家族で自宅やお店で楽しい食事をできたのにと、切ないなとしか言えません。

コロナの早期の終息を願うばかりです。



2020年05月17日

日本では、新型コロナウイルス対策で 自殺者が減少(英ガーディアン紙)

5月14日のガーディアン紙によれば、2020年4月の日本における自殺者数は1,455人で、前年同月比で20%減少し、減少幅は過去5年で最大となりました。同紙は、この理由を新型コロナウイルス対策で、①学校が休みとなり、いじめが減少したこと、②残業が減り家族と過ごす時間が増えたことと分析する一方で「1997年のアジア通貨危機の翌年には自殺者数が35%と記録的に増加した」と、今後の対応に注意を促しています。

自殺対策として、まず思い浮かぶのが電話相談です。しかし、電話を受ける相談員も新型

コロナウイルス感染対策をするため、テレワークを導入する等の設備投資をする必要があるかもしれません。電話相談を継続するための取り組みに対して支援が行き届くことを願っています。

大雨が続くケニア

ケニアでも新型コロナウイルスの影響が深刻になっています。

昨日(16日)時点で、830名の感染が確認され、50人が亡くなっています。

ケニヤッタ大統領は夜間外出禁止令や都市間の移動制限を6月6日まで延長した上、タンザニアとソマリア間の国境を新たに封鎖することを発表しました。

問題となっているのは、コロナだけではありません。

毎日のように大雨が続き、断続的に停電も続いています。

さらに大雨でダムが崩壊したため、ナイロビ市には1週間以上水が供給されない状態が続いています。

商業施設をはじめ、富裕層や外国人の居住地区等は、水を民間業者から購入する等の対応をしていますが、水の値段も上がっており、一般の住宅では水不足も深刻な問題になっています。なんと復旧までにはさらに2週間がかかるそうです。

ヘルスセンターにも水がこないで、雨水を溜めて掃除等に利用していますが、十分ではありません。

ヘルスセンターも毎日のように浸水。その都度、モップで水をふき取り、消毒していますが、衛生環境の悪化が深刻な問題となっています。

大雨が、インフラが脆弱なスラム地区の人々の生活に更なる支障を与えているため、1日も早く状況が改善することを願ってやみません。



2020年05月18日

「離婚テラス」代表の小泉さん

朝日新聞に登場！

日本リザルツ事務所の一面で活動されている「一般社団法人 家族のためのADR推進協会」(離婚テラス調停センター)代表の小泉さんが、5月17日(日)の朝日新聞9面のフォーラム「パートナーのこと」の紙面に登場しました。

夫婦関係の相談に応じる際のアドバイスとして、「相手は変えられない。変わるの自分だけ」と発言されています。

私も深く納得です！



2020年05月21日

ウイルスを分解(溶か)しましょう

緊急事態宣言がまもなく解除となりそうです。

今後、第2波が懸念されていますが、栄養に関する書籍からある発見を得ました。

それは、ウイルスは恐くないという本です。

なぜ、恐くないのか？ウイルス、それ自体はタンパク質の塊です。私たちの体は主にタンパク質ででき



ています。細胞、肉、魚、卵、大豆もタンパク質。

米、麦、蕎麦にもタンパク質が含まれている事はご承知のとおりです。このタンパク質を分解するには、消化が必要です。アミノ酸という小さな単位にするため、タンパク質を、口、胃、腸内で分解、消化をしていきます。

分解しにくいものは、どうするか？ 醗酵(はっこう)という手段を使います。

動物性蛋白質の分解促進には、野菜・果物・香辛料・酢と一緒に料理するといいそうです。そして・・・フィトンチッドと呼ばれる揮発性物質が、効力を発します。『フィトン(植物)チッド(殺す能力)』鮎屋のヒノキ飯台、トドマツ、イソツツジ、ヒノキ、オレンジの樹の葉、シャクヤク、ワサビの地下茎、ニンニクおろし、おろし玉ねぎ、からし、ニンジン、ネギ、大根等、全てにフィトンチッドの特性があります。

例えば、ゆで卵や牛肉片を、からしの入った密封容器に置くと、1年経っても腐敗しないそうです！緊急事態宣言解除後、どのような効力があるのか考え食材を選ぶことが1つの予防対策になるかもしれません。

ハローキティのティッシュペーパー

ストップ結核パートナーシップ、結核予防会、日本リザルツ等の主催で、子どもたちを結核から守るために、ハローキティと一緒に全国一斉結核キャンペーンを実施します。

骨髄バンクさんは昔からハローキティとコラボしています。ハローキティのティッシュペーパーのかわいい写真をご覧ください。



2020年05月23日

日本リザルツで初のオンライン会議！

GPE勉強会「今、教育に求められること」

教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)の勉強会が22日、「新型コロナ感染拡大
今、教育に求められることは」をテーマに開催されました。東京、パリ、ワシントンDC、
広島と4カ所を結んだ日本リザルツ主催の初のオンライン会議です。

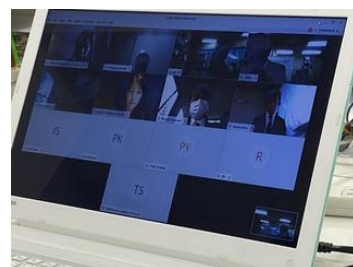
参加者は三原朝彦・衆議院議員、小田原潔・衆議院議員、吉田和浩・広島大学教育開発国
際協力研究センター長、黒田一雄・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、北村友人・
東京大学大学院教育学研究科准教授、丸山隆央・広島大学大学院人間社会科学科特任准教
授、中川浩一・外務省地球規模課題分野別交渉官、齊藤順子・外務省課長補佐、松吉由希
子・GPE事務局シニアパートナーシップスペシャリスト(パリ)、岩崎響子・GPE事務局モ
ニタリング評価専門官(ワシントンDC)です。

当初は議員会館での勉強会を企画していましたが、新型コロナ感染拡大の影響で、何度も
延期になり、最終的にオンラインで実現しました。

世界中で120億人が学校閉鎖の影響を受け、2億5,800万人以上の子どもが学校から疎外され
ています。

GPEの役割と課題や日本の援助状況、新型コロナ後に強まるとみられる「自国ファースト」
における国際援助のあり方等が議論されました。

詳しい内容は後日、冊子にま
とめます。教育について考え
る意味のあるキックオフミー
ティングになりました。



2020年05月25日

接触アプリ開発における課題

日本リザルツは一般社団法人コード・フォー・ジャパン(CFJ)を応援しており、新型コロナ
接触アプリの開発についてCFJの関代表を厚生労働省に紹介する等の協力を行ってきまし
た。

2020年5月24日(日)毎日新聞の3面に、接触アプリ開発に際し、混乱が起こっているという
記事がありました。

5月になり、新型コロナウイルスの接触アプリの開発を厚生労働省が一元化して行うことが決定しました。

この記事には、

①日本政府は、個人情報を含む情報管理に不安を抱えながらも複数の民間アプリの混在を予定していた

②国内スマホ市場の9割以上を占める米IT大手のアップルとグーグルが、スマホの基本ソフト(OS)で接触情報を相互に利用できるシステムを共同開発することを発表した

③4月下旬になり、両社のシステムを利用できるのは「1国1アプリまで、運営者は公衆衛生当局のみ」という方針が示された

④日本政府は両社に従うしかなくなった

上記の経緯があり、日本政府はそれまでのアプリ開発を断念したそうです。



尚、5月13日に開催された勉強会でCFJの関代表は「厚生労働省がアプリを一元的に開発するという決定を受けて、CFJとしてのアプリ公開は断念し、仕様策定の協力等の形に切り替えました。あるべき姿になったと思います。『ともに考え、ともにつくる』というCFJの考え方に合っています」とおっしゃっていました。関代表のような前向きな考えを持つ方と一緒に、新型アプリの開発がスムーズに進むよう、我々も応援を続けていきます。

コロナ接触アプリ開始(来月6月)

5月24日(日)毎日新聞の記事です。

接触アプリの使用方法についてですが、新型コロナウイルス感染を申告するのは(保健所等ではなく)感染者本人という仕組みになったようです。この方法であれば、虚偽の感染報告というリスクは残りますが、保健所の負担はかなり減ります。



日本リザルツは一般社団法人コード・フォー・ジャパン(CFJ)を応援しています。アプリ開発が厚生労働省に移るまで、CFJは接触アプリの開発を続けていました。日本リザルツは、これまでCFJを厚生労働省に紹介する等の協力を行っており、この啓発活動がきっかけとなり、政府がアプリ開発を進めることになりました。

アプリの一刻も早い運用開始を願っています。

予防接種遅らせてもいいの？

2020年5月23日毎日新聞の記事です。新型コロナウイルスの流行を受けて外出を避け、予防接種を控える動きが日本でもあるようです。しかし、専門家は「スケジュール通りに受けてください」と指摘しています。



実は私の娘も先日予防接種を受けてきました。日本の場合、「定期接種」に分類されているワクチン接種は無料です。町の小児科医院でも無料でした。無料でワクチン接種ができることで、日本では多くの子どもが定期接種を容易に受けられるのだと思います。

一方、海外の国々では予防接種で防ぐことができる病気により多くの子どもたちが命を落としています。ケニアのスラム街からの報告によると、現地の保健センターは、新型コロナウイルスの影響で保健サービスの規模を縮小しているということです。また、予防接種を他の場所で打つことは可能ですが、それは一般人にとっては高価すぎるようです。

子どもたちに対する予防接種を継続するにはどうしたらいいのか？ Gaviアライアンスは、そのような開発途上国に予防接種の支援を行い、子どもたちの命を救っています。来週にはロンドンでGaviの増資会合が行われます。日本政府がより多くの資金をGaviに拠出し、感染症・予防接種の分野でリーダーシップを発揮することで、予防接種で防ぐことができる病気により子どもたちが命を落とすことのないようにして欲しいと願っています。

新型コロナウイルスによる結核対策への影響

新型コロナウイルスの感染拡大は様々な疾病対策にも大きな影響を与えています。

このうち結核への影響について、ストップ結核パートナーシップやWHOがモデル分析を行いました。

詳しい分析内容(日本語)はストップ結核パートナーシップ日本のサイトから閲覧できます。

このモデル分析によると、2021年の世界の結核罹患率と死亡率は、2013年から2016年の間に見られたレベルまで上昇し、新型コロナウイルスの世界的流行により、結核終息に向けた進捗は少なくとも5〜8年後退したことになるとしています。

以下、内容の抜粋：

<結核について>

● 結核は空気感染する病気。世界10大死因の1つ、世界最大の感染症であり、薬剤耐性(AMR)やHIVに関連する主な死因。

● 2018年には、約1,000万人が結核を新たに発病し、150万人が死亡している。

● 結核のために働けなくなる、教育を受けられなくなることにより、家族、地域、国を貧困のサイクルへ導く。その人的、経済的な損失は、このままの状態であると、2015年から2030年で推定1兆ドルと言われている。

● 2018年の国連総会(UNGA)では、各国首脳が国連ハイレベル会合において、結核対策を劇的にスケールアップし、結核の減少を加速させ、2030年までに結核を根絶するというSDGの目標を達成することを誓約している。

< 主な具体的な中間目標 >

- ・ 2022年までに結核患者4,000万人を治療するために診断と治療を提供する。
- ・ 2022年までに結核対策費を少なくとも年間130億ドル増加し、新薬等の結核研究開発費に年間20億ドルを投資することを目指す。
- ・ 高結核負担国を中心に、結核を発病するリスクが高い、少なくとも3,000万人が予防的治療を受けられるようにする。
- ・ 小児結核対策の推進と小児を対象にした結核対策の政策作成を進める。

● 世界の努力によって、2000年から2018年の間に、5,800万人の命が救われ、結核による死亡は38%減少していた。

● しかし、新型コロナウイルスの世界的流行により、結核患者発見が劇的に減少し、治療が遅れ、治療中断のリスクや 薬剤耐性結核患者の増加の可能性が増加した為、UNGAの目標を達成に向けた進展に大きな後退をもたらすことが推測されている。

ちなみにこのモデル分析は私が駐在するケニアも対象になっています。医療サービスにアクセスできない人が増えていることで、結核の診断が行えなかったり、投薬が続けられな

かったりし、見過ごされているケースが増えてきているのが現状です。結核診断・治療をサポートしているCHVは医療従事者でないため、活動を大幅に縮小しており、事態が長期化していることで、新型コロナウイルス以外の疾病がまん延することが懸念されています。

2020年05月28日

ツバメの話題

本日はツバメの話題です。

先日の朝日新聞に下記のツバメの巣の写真が掲載されていて、微笑ましく見ていたところ、昨日、佐渡のツバメの動画を先日写真勉強会の講師を務めてくださった大山氏からいただきました。大山氏はトキの写真を撮る為、勉強会のあと、佐渡島に滞在されています。



2020年05月29日

第2弾日本リザルツ

オンライン会議「誰一人取り残さないために」

日本リザルツ事務所で28日午後、栄養に関するオンラインの会議を開催しました。GPE勉強会に続き、事務所でのオンライン会議は2回目となります。

会議のテーマは、今年12月に予定していた東京栄養サミットに関連した英学術誌「ネイチャー」とGGG+の共催イベント「誰一人取り残さないために」についてです。

新型コロナの影響で、栄養サミットは延期される見込みですが、コロナの陰で栄養サミットの機運を下げないために日本リザルツも仕掛けを検討中です。



具体的には、「お母さん」をキーワードに、栄養と教育、そして貧困をなくすイベントにできればと考えています。

2020年05月30日

そろそろ季節です

もうすぐ6が始まります。日本リザルツでは栄養アドボカシー活動をしています。

世界の食に関わるフォトコンテストに掲載されていたこちらの写真。

これからの季節、食卓へ頻繁に登場するでしょう。

ビールが欲しくなります。

Edamameは世界中そのままの名前で呼ばれるくらい有名になりました。

貧困国で栽培することが可能であれば、その国の方々とこの食材を通じて栄養学を共有、

楽しく学んでいただけるのではと思いますを巡らせました。



11/20 スライド © Stuart West/Pink Lady® Food Photographer of the Year 2020

『Edamame』

2020年05月31日

ダンスで医療従事者にエールを！

ケニアでも新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。ここ数日は1日100人以上の感染が確認されており、キベラ、マサレ等スラム地域でのまん延も目立ってきました。

未曾有の事態が続く中、最前線で頑張っているのは医療従事者の皆さんです。各国で感謝と敬意を示す活動が行われています。日本では感謝の航空ショーが行われたようです。

ケニアではちょっと変わった方法で、エールが贈られました。

なんと、ズンバというダンスです！

ダンスと音楽が大好きなケニアの皆さん。ズンバのパワーで安全かつ元気に活動に励んでいただけることを願っています。

